

## 河北春秋

プロ野球東北楽天の星野仙一監督がメッ  
セージを寄せた。この痛みは発症した  
人にしかわからないが本当に辛い。今後  
もうまく付き合っていくしかないんだよ  
な。V。実感のこもったつぶやきだった

▼後縦靭帯骨化症の患者や家族でつくる  
友の会が7日、仙台市で講演会と相談会を開いた。

この病気は背骨を縦に通る靭帯が硬くなって神経  
を圧迫し、痛みやしびれを引き起こす。星野監督  
は背骨付近にある別の「黄色靭帯」の骨化症と診  
断され、手術を受けた▼二つの靭帯骨化症はとも  
に原因不明の国指定難病。講演した東北中央病院

(山形市)の田中靖久院長によると、手足のしび  
れなどの症状が絶えず起こるのが特徴で、治療は  
手術しかない。それでも完治しない場合があり、  
症状と「うまく付き合っていく」ことが求められる  
▼同じ病気に悩む人は多い。プロ野球では、巨  
人の越智大祐投手やソフトバンクの大隣憲司投手  
が手術を受けている。東北高(宮城)野球部の若  
生正広・元監督も発症し、つえを使って指導を続  
けていた▼厳しい闘いを強いられている人にとっ  
て、共に歩む仲間が掛け替えのない存在になる。  
友の会のモットーは「自分一人で悩まない、抱え  
込まない」。講演会と相談会に参加した人たちの表  
情にも光が差したように見えた。(2014.9.9)